

学習指導プラン

中学校美術科第1学年

題材名 文字のデザイン ～わたしの一文字



内容のまとめり

〔第1学年〕「目的や機能などを考えた表現」

「A表現」(1) イ(イ)、(2) ア(ア)(イ)、〔共通事項〕(1) アイ

「作品や美術文化などの鑑賞」

「B鑑賞」(1) ア(イ)、〔共通事項〕(1) アイ

1 本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 「A表現」(1)

イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。

第1学年 「A表現」(2)

ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。

第1学年 「B鑑賞」(1)

ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕(1)

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

2 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・文字や文字が意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。〔共通事項〕
- ・意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。〔「A表現」(2)〕

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・文字の意味や全体のイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現の構想を練る。〔「A表現」(1)〕
- ・文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。〔「B鑑賞」(1)〕

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、意味と分かりやすさの調和のとれた文字を表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<p>知 文字や文字の意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。</p>	<p>発 文字の意味や全体のイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 文字の意味と分かりやすさととの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい、文字の意味と分かりやすさ、形や色彩などとの調和のとれた文字のデザインについて、伝える相手や場面を考えて構想を練り、意図に応じて工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、文字の意味と分かりやすさ、形や色彩などとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

※**知**＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、**技**＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、**発**＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、**鑑**＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、**態表**＝表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準、**態鑑**＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。

4 指導と評価の計画 (全9時間)

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
<p>1. 鑑賞 (1時間)</p> <p>● 広告や新聞等の見出しや本文の文字に注目し、文字の形や色彩などの違いによって、どのような印象を受けるかについて考える。</p> <p>・ 新聞の記事や広告等の見出し、本文の文字に注目し、伝達のデザインの意図や表現の工夫などについて形や分かりやすさなどの視点から感じたことや考えたことなどの意見を述べ合う。</p> <p>・ 私たちの学校について、そのイメージを表す文字の形と色彩を用いて、1人1台端末を活用して表現する。その文字の形と色彩で表した理由を述べ合う。</p>	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p>	<p>知 造形的な特徴に着目して、伝達のデザインにおける分かりやすさについて理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して、広告や新聞等の見出しを例に、文字の形や色彩などが与える効果を具体的に示しながら指導を行う。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>鑑 見出しや本文について、文字の形や色彩などの違いによる表現の意図と工夫などについて考えているかどうかを見取り、見方や感じ方を広げることができていない生徒に対して、視点を確認して鑑賞するように指導を行う。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>態鑑 伝達のデザインに興味や関心を持ち、形や色彩などの性質を理解しようとしたり、調和のとれた美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図や工夫について考えようとしている態度を見取り、できていない生徒に対して、身近な伝達のデザインを紹介して、どのような印象をもつか考えることができるように指導を行う。【活動の様子、ワークシート】</p>

<p>2. 発想 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発想を広げ、主題を生み出す。 ・ 自分が選択した文字について、その文字の意味を調べる。 ・ 選択した文字の意味から連想するものを、思考ツール(マインドマップ)を用いて書き出す。 ・ グループで各自の思考ツール(マインドマップ)を見せ合い、ほかにも連想するものに関して意見を述べ合う。 		<p>発 ↓</p>	<p>態表 ↓</p>	<p>発 文字の意味やその文字から連想するものを基に、主題を生み出そうとしているかどうかを見取り、主題を生み出すことができていない生徒に対して、1人1台端末を活用して文字について調べるように促すなどの指導を行う。【ワークシート(マインドマップ)】</p> <p>態表 主題を生み出そうとする態度を見取り、主体的に活動できていない生徒に対して、鑑賞の学習での内容について振り返るよう促したり、他者の思考ツール(マインドマップ)を参考にして発想を広げるよう促したりするなどの指導を行う。【活動の様子】</p>
<p>3. 発想、主題設定 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発想を前時のものから広げ、主題を生み出す。 ・ 前時に選択した文字の意味から連想するものを更に広げる。 ・ 思考ツール(マインドマップ)に表した連想するものを簡単にイラストで描き表す。 ・ 文字絵の主題を生み出す。 ・ 生み出した主題を基に、文字の点画にその文字の意味やその文字の意味から連想するものを組み合わせながら、構想を練る。 ・ 主題をグループで紹介し合い、それぞれの考えを知る。 		<p>発 ↓</p> <p>...</p> <p>発</p>	<p>態表 ↓</p> <p>...</p> <p>態表</p>	<p>発 文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出そうとしているかどうかを見取り、主題を生み出すことができていない生徒に対して、1人1台端末を活用して文字について調べるように促すなどの指導を行う。【ワークシート(マインドマップ)】</p> <p>態表 主題を生み出そうとする態度を見取り、主体的に活動できていない生徒に対して、鑑賞の学習での内容について振り返るよう促したり、他者の思考ツール(マインドマップ)を参考にして連想するものを広げてみるよう促したりするなどの指導を行う。【活動の様子】</p> <p>発 文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出そうとしているかどうかを暫定的に評価する。【ワークシート(マインドマップ)】</p> <p>態表 主体的に知識を活用しながら、主題を生み出す学習活動に取り組もうとする態度を評価する。【活動の様子、ワークシート(マインドマップ)】</p>
<p>4. 構想、制作 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主題を基に、構想を練る。 ・ 主題を基に、文字の点画にその文字の意味やその文字の意 		<p>発 ↓</p>	<p>態表 ↓</p>	<p>発 主題を基に、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現の構想を練っているかどうかを見取り指導する。構想を練る</p>

<p>味から連想するものを組み合わせながら、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 思考ツール（マインドマップ）に描いたイラストを基に、下描きをする。着色を想定しながら下描きを進める。 アイデアスケッチをグループで見せ合い、それぞれの考えを知る。 アイデアスケッチを清書用紙に転写し、配色計画を立てる。 		<p>⋮</p> <p>発</p>	<p>⋮</p> <p>態表</p>	<p>ことができていない生徒に対して、再度文字の意味から発想を広げたり、主題を確認するよう促したりするなどの指導を行う。</p> <p>【ワークシート（アイデアスケッチ）】</p> <p>態表主体的に構想を練ろうとする態度を見取り、できていない生徒に対して、鑑賞の学習での広告や新聞等の見出しや本文の文字における伝達のデザインの意図や工夫などについて振り返るよう促し、発想する際の参考にできるようにする。【活動の様子、ワークシート（アイデアスケッチ）】</p> <p>発主題を基に、分かりやすさと形や色彩などとの調和などを考え、表現の構想を練っているかどうかを暫定的に評価する。授業外で主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を、完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正する。【ワークシート（アイデアスケッチ）】</p> <p>態表主体的に知識を活用しながら、構想の学習活動に取り組もうとする態度を評価する。【活動の様子、ワークシート（アイデアスケッチ）】</p>
<p>5. 制作（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発想や構想を基に、意図に応じて表現方法を工夫し、見通しをもって表す。 形や色彩などが感情にもたらす効果を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して、見通しをもって表す。 制作の途中に鑑賞を行い、客観的な視点に立って他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより、表したいものをより一層明確にしていくなどしながら作品を完成させる。 	<p>知・技</p> <p>↓</p>	<p>発</p> <p>↓</p>	<p>態表</p> <p>↓</p>	<p>知・技形や色彩などが感情にもたらす効果を生かし、意図に応じて表現方法を工夫しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して、発想や構想を確認したり、他者の表現の工夫を参考にしたりするよう促し、表現方法を考えることができるようにする。【作品】</p> <p>発設定した主題を基に、表現する構想をまとめていくかどうかを見取り、できていない生徒に対して、前時のワークシートを振り返り、発想や構想に生かすことができるようにする。【ワークシート（アイデアスケッチ）】</p> <p>態表主体的に表現方法を創意工夫しようとしていたり、見通しをもって表そうとしていたりしている態度を見取り、できていない生徒に対して、形や線の太さの違いによる印象の違いなどに注目するように促すなど、表現の工夫などに対する意欲を高めるような指導を行う。【活動の様子、作品、ワークシート（アイデアスケッチ）】</p>

	知・技	態表	<p>知・技作品から、意図に応じて表現方法を工夫して表しているかどうかなどを見取るとともに、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【作品、ワークシート (アイデアスケッチ)】</p> <p>態表主体的に制作に取り組み、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【活動の様子、作品、ワークシート (アイデアスケッチ)】</p>
<p>6. 鑑賞 (1時間)</p> <p>●生徒作品を鑑賞し、伝達のデザインについての見方や感じ方を広げる。</p> <p>・完成した作品を互いに鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合い、主題と表現の関係や、意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。</p>	知 ↓	鑑 ↓ 態鑑 ↓	<p>知形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることについて理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して、具体例を示すなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>鑑 態鑑作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることができているかどうかなどと、取り組む態度とを見取り、できていない生徒に対して、主題から作品を見つめたり、作者の心情について考えたりすることができるように促すなどの指導を行う。【活動の様子、ワークシート】</p> <p>態鑑主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしている態度を評価する。【活動の様子】</p>
<p>〈授業外：題材が終了後〉</p>	知・技	鑑 発	<p>知・技完成作品や表現及び鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート】</p> <p>鑑作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方が広がっているかどうかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>発発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて、再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート】</p>

※「指導と評価の計画」における記号等の表記は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 美術』の p.57 を参照。

5 本時の展開（3／9）

(1) 本時の目標

文字の意味やその文字の意味から連想するものを広げ、主題を生み出す。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】等
導 入	1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に、選択した文字の意味から連想するものをどれくらい書き出すことができたか確認する。 参考作品を提示し、それぞれの作品が文字の意味や成り立ち、熟語等に関連していることに気付くことができるようにする。 前時に作成したマインドマップを文字絵の制作で生かしていくことを確認する。 主題を生み出す上で、前時に連想したもので十分か考えることができるようにする。 	
	2 本時のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ほかの人に分かりやすく、楽しく伝えられる文字絵を制作することを確認し、本時のめあてを全体で共有する。 	
めあて：ほかの人に分かりやすく、楽しく伝えられる文字絵の主題を設定しよう。			
		<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を用いて、生徒が学習の見通しをもつことができるようにする。 	
展 開	<p>3 発想を前時のものから広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の意味や熟語から連想するもの 「自分にとってそのように感じる」もの <p>4 連想するものを基に、主題を生み出す。主題を設定する際のポイントを確認する。</p> <p>□ マインドマップに表した連想するものを簡単にイラストで描き表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選択した文字の意味や熟語から、更に連想するように伝える。 文字の意味に「明るい」や「優しい」のような形容詞が含まれる場合、自分にとって「明るく感じるもの」や「優しく感じるもの」を連想して考えるよう促す。 主題の設定について、教師が選択した文字を例に、幾つかのモデルを示す。 主題の設定までに、検討や改善を行きつ戻りつするなど、生徒一人一人が、それぞれのペースで学習を進めることができるようにする。 連想するものをたくさん描き出すことができるよう、簡単なイラストで描き表すよう促す。 	<p>発文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出しているかどうかを見取る。【ワークシート（マインドマップ）】</p> <p>態表主体的に知識を活用しながら、主題を生み出そうとする態度を見取る。【活動の様子】</p>

	<p>□ 下描き用紙に文字を描き写す。</p> <p>□ 文字絵の主題を設定する。</p> <p>5 生み出した主題を基に、文字絵の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を基に、文字の点画にその文字の意味やその文字の意味から連想するものを組み合わせる。 <p>6 アイデアスケッチをグループで見せ合い、各自が生み出した主題と工夫したところを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を描き写す際は、これから文字の上に図を描き込んだり組み合わせたりすることができるよう、輪郭線は薄く描くよう伝える。 ・ワークシートで主題についての考えを整理するよう促すことで、「文字の意味からこのようなことを表したい」と説明できるようにする。 ・文字絵は点画の一部又は全てを図で表してもよいことを伝える。 <p>・他者の紹介を聞く際は、主題を意識して聞くよう伝える。</p>	<p>態表主体的に知識を活用しながら、発想し主題を生み出す学習活動に取り組もうとする態度を評価する。【活動の様子、ワークシート（マインドマップ）】</p>
<p>終末</p>	<p>7 前時と本時の活動を振り返る。</p> <p>① 主題を生み出す上で大切だと感じたこと</p> <p>② 難しかったこと、うまくいかなかったこと</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学びを確認し、次時の見通しをもつことができるようにする。 ・数名に発表を促し、本時の学びから大切だと感じたことを、全体で共有できるようにする。 <p>・アイデアスケッチを進めることができるように参考資料や1人1台端末を準備することを伝える。</p>	<p>発文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出そうとしているかどうかを暫定的に評価する。授業外で主題や構想の工夫などを記述したワークシートを、完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正する。【ワークシート（マインドマップ）】</p>

6 本時の評価規準と判定基準

評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
<p>発 文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出そうとしている。【ワークシート(マインドマップ)】</p>	<p>「おおむね満足できる」状況(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の意味や全体のイメージを基に、主題を生み出している。 <hr/> <p>「十分満足できる」状況(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の意味や全体のイメージを基に、伝える相手や場面から、主題を生み出している。 <hr/> <p>「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への指導の手立て等</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の意味から連想するものを身近なものに関連して考えるように促し、再度主題について考えることができるようにする。また、統一感のある作品を具体的に示し、主題の設定につなげることができるようにする。
<p>態表 主体的に知識を活用しながら、発想し主題を生み出す学習活動に取り組もうとしている。【活動の様子、ワークシート(マインドマップ)】</p>	<p>「おおむね満足できる」状況(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の活動に取り組み、知識を活用しながら文字の意味やその文字の意味から連想するものを基に、主題を生み出そうとしている。 <hr/> <p>「十分満足できる」状況(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に表現の活動に取り組み、知識を活用しながら文字の意味と分かりやすさとの調和のとれた洗練された表現を目指している。 <hr/> <p>「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への指導の手立て等</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の活動の振り返りを見直すように促し、参考作品を用いて表現の工夫などについての意欲を高めることができるようにする。